

令和4年度秋田県社会福祉審議会地域福祉支援計画専門分科会
議事要旨

1 開催日時

令和5年3月17日（金） 13:30～14:50

2 開催場所

秋田地方総合庁舎5階 総503会議室

3 出席委員

6名中6名出席

4 議事

(1) 秋田県地域福祉支援計画の進捗状況について

今年度の施策の実施状況を説明し、委員から今後の取組等に対して意見が出された。

【Ⅰ体制づくり】

○重層的支援体制整備事業を活用するかしないかに関わらず、複雑化・多様化している課題に対して包括的な支援体制の整備に向けて、地域でソーシャルワークできる人材が必要である。市町村社協と一緒に要望をしたところであるので、国の制度も含めて、取組について、支援をお願いしたい。

【Ⅱ地域づくり】

- 地域づくりのシステムづくりについては、市町村で実施していただいている。高齢者、ひきこもり、妊産婦など、市町村ごとに事情は違うと思う。困りごとの洗い出しをして、地域ごとに対応していただきたい。
- 多世代交流拠点について、市町村ごとに面積や人口など事情は異なるので、市町村ごとに設置数は異なると思う。
- 多世代交流拠点とは、どのようなことをやっているのか地域の方に御理解いただく必要がある。
- 地域共生社会の理念について、地域までの浸透性が見えない。地域共生社会をどのように広げるかについて、自治会の代表を集めて出前講座を行ったり、地域の調査を行ったりして、地域の課題を把握する必要がある。互いに助け合う地域にならなければいけない。小学校・中学校・高校生等、子ども達をうまく活用する必要がある。
- 自殺予防のゲートキーパーを行ったことで、自殺が減ったなど、見える化、数値化していかないといけない。

【Ⅲ人づくり】

- 12月に民生委員の一斉改選があり、充足率は全国でも低く、減少傾向に歯止めがかからない。なり手不足に行政がどのように関わればいいのか、検討が必要だと思う。充足率が高い市町村があるので、うまくいっている事例を共有する必要がある。
- ボランティアの参加率が50歳以下だと、仕事をしながらになるので、余裕がない。子ども食堂で高校生がボランティアをしている。子どもとの会話や食事を作っている。

るおばさんとの会話など、ボランティアをするだけでなく、楽しみがあるので来てくれている。ボランティアに参加するための仕掛け作りが必要である。県が主導して、市町村へ呼びかけていただきたい。ボランティア団体への助成金などをいただいて、予算を増やしながらやりたい。市町村の予算はNPOでも使えるが、国の予算は自治体しか使えない。地域づくりは、今後、大事になってくる。いい地域になれば、人を呼べると思うので、長い目で見て、予算を考えていただきたい。

○福祉人材確保については、小中学生の親世代へのアピールが必要である。子どもを通してではなく、親に直で渡す、伝わる方法を考えていただきたい。

【IV基盤づくり】

○妻の母が車椅子で、妻が車椅子を押して、飲食店等に行く。バリアフリー対応とホームページで紹介されているレストランでも、入り口はスロープになっているが、トイレが狭くて、介助することができない。事前に電話で確認して、大丈夫だと回答いただいてから行っても、やはりトイレが狭い。障害者目線になっていないのではないかと。秋田県は、高齢県なので、バリアフリーの先進県になっていただきたいので、県で率先して取り組んでいただきたい。

○権利擁護について、成年後見制度に期待が高まるが、現状は専門職に頼っている状況である。市民後見人の養成を進める必要があると思うが、実施市町村が少ない。複数の市町村が連携して、養成を進める場合にも助成できるなど、工夫していただきたい。

○障害者の声を聞くことが大事である。小児療育センターと赤十字の十字路にある点字ブロックが、黄色ではなく、アスファルトと同じ色になっている。都市景観のためだと思うが、公共の道路については、障害者の目線になって、ロービジョンの方にも歩きやすいようになってもらいたい。

(2) 令和5年度における新たな事業について

令和5年度新規事業について説明し、委員からは特に意見はなかった。

(3) 地域福祉支援計画の策定について

○県社協の活動計画と連携しながら進めて行きたい。

○コロナで、孤独・孤立がクローズアップされている。孤独・孤立対策法案が令和6年4月に法律案が制定される。県に協議会を置くことになっている。この分野とも関連してくると思うので、県側でも対応を検討いただきたい。

○策定委員に市町村が入るのは望ましい。認知症サポーター養成講座について、それぞれ市町村はやっているが、ステップアップ講座は義務化されていないので、つながっていない。地域共生社会においては、市町村は重要である。